

2015 年度 小委員会活動成果報告

(2016 年 2 月 11 日作成)

小委員会名	各部構法小委員会	主 査 名：小見 康夫 就任年月：2012 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築計画委員会 (構法計画運営委員会)	委員長名：大原 一興 主 査 名：角田 誠
設 置 期 間	2012 年 4 月 ～ 2016 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・建築物の改修における設計・施工事例に関する情報収集ならびに事例研究 ・改修設計施工に関わる情報を共有化するためのプラットフォームである「参加型ナレッジベース」の構築 ・「参加型ナレッジベース」を用いた改修構法に関する手法や関連情報の整理・体系化 ・「参加型ナレッジベース」による改修手法に関わる知識共有の在り方に関する検討（情報公開の方法・使用権限・著作権などに関する検討を含む） <p>【2014 年度（前年度）の活動計画】 ブラウザベースによる上記ナレッジベースの試作・試用評価の実施</p> <p>【2015 年度（本年度）の活動計画】 試作システムの実装・試用および取りまとめ</p>	
委員構成 (委員名（所属）)	<p>委員公募の有無：有</p> <p>主査：小見康夫（東京都市大学） 幹事：池尻 隆史（近畿大学） 幹事：信太 洋行（東京都市大学） 委員 南 一誠（芝浦工業大学） 角田 誠（首都大学東京） 名取 発（東洋大学） 熊谷 亮平（東京理科大） 岡路 明良（鹿島建設株式会社） 奥村 誠一（青木茂建築工房） 加戸 啓太（立命館大学） 石田 航星（工学院大学） 前島 彩子（東京理科大学） 権藤 智之（首都大学東京） 齋藤 茂樹（北方建築総合研究所） 小久保 彰（公益財団法人 建築技術教育普及センター）</p>	
設置 WG (WG 名：目的)		
2015 年度予算	135,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： https://sites.google.com/site/kakubukouhou/home

項 目	自己評価
委員会開催数	5 回（年度内計画を含む）
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	

<p>催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画</p>	
<p>大会研究集会</p>	<p>建築計画部門 パネルディスカッション 「iBE 論ービルディングエレメントと構法の過去・現在・未来ー」 参加者数 64 名</p>
<p>対外的意見表明・パ ブリックコメント等</p>	
<p>目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 既存改修構法のナレッジベース化のプラットフォームの検討・試作 →前年度に作成した簡易版データベースを改良し、より軽快に動作するシステムを構築した →委員会メンバーで写真データのアップロード試験を繰り返し、主に公開上の不具合点を抽出ならびに公開ガイドラインのあり方について討論した →知識の蓄積方法（表示方法ならびに整理方法）についても検討を深めた →蓄積された具体的な改修構法事例について討論し、関連する最新の知見を共有した 2. 建築学会大会におけるパネルディスカッション →オープンビルディング小委員会と共同で企画・実施し、委員会メンバーによるパネルディスカッション資料を作成した →討論では、かつての BE 論について昨今進展の目覚ましいコンピューテーショナル・デザインとの親和性が討論され、設計情報の整理と蓄積、さらに手法選択に関わる最新事例が紹介された →これまでの BE 論については、iBE 論としての発展の可能性が示されるとともに、その限界となっている諸問題について議論があった 3. 現場見学や講演会等の開催 →本年度は、パネルディスカッションの準備等で極めて多忙であったため、現場見学会・講演会共に開催されなかった。
<p>委員会活動の問題点 ・課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 構築した改修構法ナレッジベースの試用範囲を構法計画研究者（大学院生を含む）や設計者に拡大し、使用感についてのヒアリングを実施する 2. 研究協議会やパネルディスカッションで継続的に扱ったコンピューテーショナル・デザインと構法の今日的関係については今後も注視し、次年度以降の委員会活動の中で機会を見て同様の研究会の開催を検討する 3. 設置期間中は研究協議会とパネルディスカッションの運営に忙殺されたため、見学会の実施など新たな知見の共有についても可能な限り機会の創出を図る

*小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

*表中の「(書名)」等の赤文字は、記述を誘導するための説明である。記載の有無にかかわらず最終的には削除のうえ提出すること。